

はじめに

今、マクロな人口構造として、少子高齢社会、人口減少社会は現実のものとなって現れ、ミクロな社会現象として生活の個人化が急速に進んでいる。個人化が進む社会と暮らしては、孤立化というリスクと背中合わせである。他者や地域との関係性の希薄化は、個人のアイデンティティ確立の難しさ、生命の連続性の実感の乏しさ、多世代・多文化間のコミュニケーションの断絶、それらがあ

活者は直面している。

そのような社会背景を踏まえて、当連載では、大阪の都心部・上町台地界隈をフィールドに、地域課題の把握と問題解決に向けた数々の協働的実践を紹介してきた。これまで繰り返し述べてきたとおり、上町台地界隈には特有の歴史の蓄積とともに、さまざまな地域資源・地域活動の魅力的な集積がある。一方で、急増するマンション立地と新住民の増加、世帯の小規模化などを背景に、個々の暮らしの孤立化や地域コミュニティの弱体化といった課題が浮かび上がってきてつつある。こうした課題に対

弘本 由香里

written by Yukari Hiromoto

大阪・上町台地発
都心居住文化の創造へ
(第12話)

NEXT21 /
U-CORPORプロジェクトの始動
ネットワークと主体形成のミクロな媒介装置へ

いまってソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の弱体化を引き起こす。

さらに視野を広げてみると、環境問題の深刻化や社会・経済のグローバル化は、対立する価値観を調整し、経済・環境・社会(地域・文化)の調和による持続可能な社会・生活システム、ソーシャル・キャピタルの必要性を強く迫ってくる。個人化が極度に進み、ソーシャル・キャピタルの弱体化が加速するのと裏腹に、ソーシャル・キャピタルの形成が社会の持続可能性のために不可欠の条件として問われてくるという、皮肉な現実に現代の生

して、地域資源・地域活動の集積そのものを活かしていくことで、有効に機能するコミュニケーションデザインを仕掛け、これからの住まい・暮らし・まちづくりに貢献する社会実験ができないだろうか、といった目的意識のもとに、上町台地上に立地する大阪ガス実験集合住宅NEXT21(1)の第3フェーズ居住実験(二〇〇七年から五年間を予定)の一環として、地域コミュニケーションデザイン実験に取り組むこととなった。

当連載第12話では、実験集合住宅NEXT21(以下、NEXT21)に導入した新たな試み、地域コミュニケーション

ンデザイン実験の開始から現在までの始動期の実践内容について簡単に紹介することとする。

NEXT 21の空間資源を共的資源に

NEXT 21が持つ空間資源としての価値を、地域の共的な資源へと拡張していけないだろうか、という考えの発端は、当連載第6話に遡ることができる。上町台地コミュニティ・ビジネス研究会(第6話・脚注 1参照)による、都心集合住宅を活用した地域コミュニケーションによる、都心集合住宅の提案の検討として、都心集合住宅をインターフェイスにして、都心居住者と地域がつながることができるかどうか、地域との関係性の中で生活価値を高めていくことができるかどうかについて議論を重ねている。その際のケーススタディの対象として、上町台地に立地するNEXT 21をモデルとした経緯がある。

上町台地コミュニティ・ビジネス研究会の提案は、地域資源(データベースの活用や、コミュニケーションデザイン・キットの開発、コミュニティ・ビジネス・モデルの創造など)さまざまな可能性を考慮し、多岐に及ぶものだった。その提案の背景にある課題認識や理念を受け継ぎながら、NEXT 21での具体的な実験の企画・実施に当たっては、新たに実践部隊としてのワーキング・チーム(U-CoRo)プロジェクト・ワーキング(2)を立ち上げ、物理的な空間や運営上の制約を踏まえ、改めて地域コミュニケーションデザイン実験のコンセプトをつくり、実践に取り組むこととなった。

第6話でも紹介したとおり、NEXT 21は、ゆとりある生活と省エネルギー・環境保全の両立をテーマに、近未来の都市型集合住宅のあり方を提案することを目的として建設された実験集合住宅である。一九九三年に竣工

し、一九九四年から社員一六家族が入居。第1フェーズ(五年間)・第2フェーズ(五年間)の居住実験(3)を経て、その成果に基づき、二〇〇七年四月から第3フェーズ(五年間)の居住実験が始まったところである。第3フェーズのテーマは「持続可能な都市居住を支える住まい・エネルギーシステム」で、環境的持続可能性(省資源・省エネルギーへの対応)と社会的持続可能性(少子高齢社会への対応)を柱に、より環境性の高いエネルギーシステムの追求や、よりフレキシビリティの高いリフォームシステムの研究、都市におけるコミュニティ創出に資する実験など、さまざまな取り組みが進められている(4)。そのうちの都市におけるコミュニティ創出に資する実験の中に、筆者が担当する地域コミュニケーションデザイン実験が位置づけられている。

地域コミュニケーション デザイン実験

これからの都市の暮らしを持続的に豊かに支えていくためには、省資源・省エネルギーはもちろんのこと、既存の住宅・建築が長く安全に使い続けられるとともに、個々の建物とまちと人の暮らしの関係が豊かに紡ぎだされていくことが欠かせない条件となる。大阪の歴史・文化の原点ともいえる上町台地上にNEXT 21が誕生して一四年になる。過去、第1フェーズ・第2フェーズの居住実験では、住棟・住戸内での持続可能性の追求という面



図2 NEXT 21/U-CoRoの通りからの眺め



図1 NEXT 21の外観

で数々の先導的な技術やシステムが開発され、評価されてきた。しかし、地域・まちとの関係性をつくりあげていくという観点からの実験には、踏み込めていなかった。そこで第3フェーズ居住実験の一環として、NEXT 21の一階北側にあるガラス張りの小空間を、「上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)」とし、その透明なガラス・ウォールを利用したウィンドウ展示や関連するワークショップなど、上町台地の時空に近づき、出会いを紡ぎ、暮らしを育む地域コミュニケーションデザインの実践を実践していくこととした。

「上町台地の文化の再発見」や「減災文化の創造」、「多世代・多文化の共生」、「自然・環境の再生」をテーマに、地域の方々をはじめ、NPOや行政、博物館や図書館、大学等研究機関の方々と協働によって、まちと暮らしをつなぐテーマ展示などを展開していくという発想である(図1~4)。

近年、大阪都心部ではマンション建設が相次ぎ、新たに上町台地に暮らすこととなる人も多岐に、こうした取り組みが都心居住者とまちをつないでいくインターフェイスの実践例になることを目指している。おりしも上町台地界隈では、当連載で繰り返し紹介してきたように、歴史・文化、国際交流、医療・福祉、教育、宗教…と、重層性を宿した地域資源の存在に根ざし、市民発意のユニークなまちづくり活動の数々が多発的に誕生している。そうした活動をネットワーク化する志向を持つ、上町台地からまちを考える会」などは地域特性を象徴する存在といえる。住宅政策上も大阪市における都心居住のリーディングゾーンと位置づけられ、魅力ある居住地づくりを取り組むNPOなどと大阪市が協働で、住むまちとしての大阪の文化を創造・発信していく、「上町台地マイルドHOPEゾーン事業」(天王寺区全域と中央区の東半分

の約九〇〇ヘクタール)も動きだしている。

こうした地域性とタイミングをとらえ、U-CoRoをインターフェイスとして、多様な主体や資源間の新たな関係づくりを媒介し、ネットワークを補充・拡張し、ソーシヤル・キャピタルの形成に寄与していくことができないうだろうか、というのが同実験の第一の狙いである。さらに、地域の居住者から専門家まで、さまざまな主体がU-CoRoのプログラムに関わることや発信される情報に接することによって、まちに対する関心や愛着を育むきっかけをつくり、まちづくりや生活文化創造への思いを耕していくことができないうだろうか、というのが第二の狙いである。

ウィンドウ・エキジビション01
「上町台地 まつり絵巻」

前述のような狙いのもとに、U-CoRoにおける地域コミュニケーションデザイン・プログラムの実践を始めることとなった。

第3フェーズ居住実験の開始に先駆けて、実験に参加する入居者や見学者を歓迎し、彼らが上町台地の生活文化にアクセスし、この地への愛着を醸成する入り口となることを意図して、上町台地に息づく歴史・文化の象徴「まつり」をU-CoRoのウィンドウ展示第一弾として取り上げることとした。タイトルはウィンドウ・エキジビション01「上町台地まつり絵巻」(二〇〇七年二月五日~四月二八日開催)。



図3 NEXT21/U-CoRoプロジェクトの主要テーマ

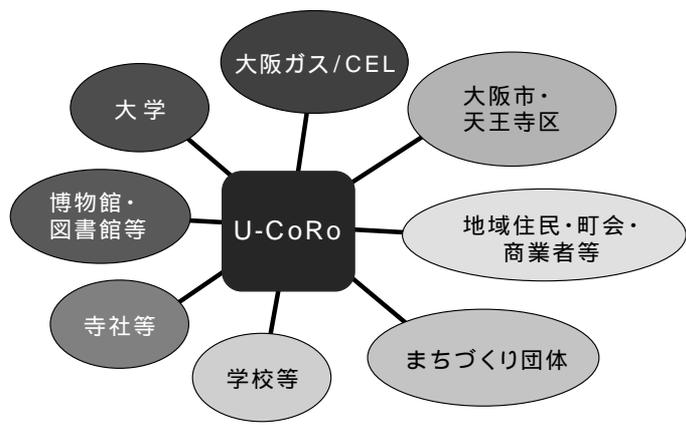


図4 NEXT21/U-CoRoプロジェクトに関わるさまざまなファクター

大阪城付近を北端に、大阪市内中心部を南北に貫く上町台地は、まつりの宝庫でもある。古代には四天王寺や難波宮が、中世から近世にかけては本願寺や大坂城、寺町が築かれるなど、歴史の舞台として人々の暮らしとともにあった、この地の来歴を如実に物語っている。浄土信仰の聖地として、あるいは巡礼の道として、多くの人が行き来した地でもある。この地に暮らし、この地に刻まれてきた人々の思いや願いの数々が、さまざまなまつりの姿をとりながら今に生き続け、新たなまつりも次々と生み出されているのが大きな特徴である。古代の祭礼から現代のフェスティバルまで、人が暮らすまちだからこそ上町台地にはまつりが息づき、その一瞬一瞬に、時空を越えてつながる生命と、文化のダイナミズム、その温かい脈動を感じ取ることができる。同展では、上町台地上で繰り広げられるまつりの数々を、暮らしの折節に意識していけるように、春・夏・秋・冬と季節をたどる絵巻風のウィンドウ・ディスプレイで紹介している(図5)。

あわせて、上町台地のまつりマップやまつりカレンダー、参考図書情報をコンパクトに集録した、小さな茶『U-CoRo 独案内(ひとりあんない)vol.01』も会場に配布し、まちに出かけていくツールとして活用できる仕掛けとしている(図6)。

なお同展は、上町台地界隈の神社やまちづくりNPO、博物館関係者など、上町台地の歴史・文化を支える多くの方々の協力によって実現している。

協力者(資料提供など)：愛染堂勝鬘院、猪飼野保存会、生國魂神社、上町台地からまちを考える会、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、からほり倶楽部、高津宮、五條宮奉賛会(特活)コリアNGOセンター、四天王寺、玉造稻荷神社、天王寺区役所、将軍地蔵尊保存会、なにわ人形芝居フェスティバル事務



図5 U-CoRoウィンドウ・エキジション01
「上町台地まつり絵巻」展示風景



図6 U-CoRo独案内 vol.01
(上町台地まつり絵巻)



図7 「上町台地のまつりを紐解く」スペシャル・トークと交流のタベ レクチャー風景 (NEXT21ホールにて)



同 西代官山クラブ、(有)富士原文信堂、堀越神社、その他の
みなさま(五〇音順)

また、会期終了翌日の二〇〇七年四月二十九日、クロージング・イベントとして、展示の実現に力を貸して下さった方々他にお集まりいただき、大阪城天守閣研究副主幹・北川央氏と大阪歴史博物館学芸員・澤井浩一氏を講師に、改めて上町台地とまつりの関係を見つめるスペシャル・トークと交流の場を設けた。上町台地の祭礼や年中行事、巡礼とまちの生活文化などを紐解き、新たなまつりを生み出すまちのダイナミズムや表裏をなす地域の課題にも迫る、レクチャーとフリートークを繰り広げた(図7)。

ウインドウ・エキジビション02

「上町台地 子どもと遊び いま・むかし」

続くウインドウ展示第二弾では、まちと暮らしの移り変わりの中で、子どもたちを育み続ける上町台地の姿を見つめる展示に取り組んだ。タイトルは、ウインドウ・エキジビション02「上町台地 子どもと遊び いま・むかし」(二〇〇七年五月一四日〜八月三一日開催)。子どもたちを育んできた、上町台地の自然や生活文化、まちの資源を見つめなおし、次世代に引き継いでいくきっかけになればとの思いを込めた企画である。

古くからたかくさんの社寺が建ち並び上町台地境界では、信仰にまつわるユニークな郷土玩具が多数生み出されてきた歴史がある。現在ではすっかり忘れ去られようとしているが、実は大阪の郷土玩具の故郷ともいうべき地であった。また、現在でも街頭紙芝居や地藏盆など、子どもたちの遊びと文化を未来につなぐ取り組みが活発な地

域も存在している。路地や坂道、鎮守の森などの緑や崖地が多い地形は、子どもたちにとって格好の遊びの舞台でもあった。かつての子どもたちは、身近な材料で競い合っ手づくりの遊び道具をつくり、路地や坂道の魅力を存分に楽しめる遊び方を次々に発明していた。

同展では、懐かしい写真や郷土玩具や手づくりおもちゃの数々を紹介するとともに、上町台地で子ども時代を過ごした祖父母世代(昭和前期頃)、父母世代(昭和後期頃)、そして平成の子どもたち、それぞれのお気に入りの遊びと遊び場について、住民の方々二七名への直接・間接の聞き取りをもとに、時代背景や生活環境の激変ぶりも含めて、貴重な証言・印象的なフレーズの数々をコラムとマップで紹介している(図8)。

展示の菜『U-CoRo独案内vol.02』(5)は、子どもたちの遊びと遊び場の変遷を、上町台地に生まれ育った方々自身の語りを中心に、懐かしい写真やおもちゃとともに振り返り、現代の暮らしやまちの環境に照らしてみることでできるツールとして編集している(図9)。

なお同展は、聞き取り調査に協力くださった方々、貴重な資料や情報を提供してくださった方々はじめ、上町台地境界に暮らす多くの方々の協力によって実現している。

協力者(資料提供など) … 青山富男さん・岡田孝輔さん・白石さん・服部多嘉男さん・松本和子さん・森茂樹さん・山田浩史さん・吉田光子さんほか、遊びと遊び場聞き取り調査」にご協力いただき

図8 U-CoRoウインドウ・エキジビション02
「上町台地 子どもと遊び いま・むかし」展示風景



ました上町台地の住民のみならず、上町台地からまちを考
 える会、越中屋、夕陽丘ストリート、大阪市、大阪市天王寺動
 物園、大阪府立中之島図書館、太田順一さん、からほり倶楽
 部、からほりまちアート実行委員会、杉浦貞さん、玉造稲荷神
 社、西代官山クラブ、(有)富士原文信堂、そのほかのみならず
 (順不同)

また、会期終了目前の二〇〇七年八月二十五日、もうす
 ぐクロージング・イベントと称して、展示でも紹介した
 紙芝居師・杉浦貞氏による街頭紙芝居を、NEXT21の
 立体街路で上演。また、宮本順三記念館・豆玩舎ZUN
 ZO副館長・樋口須賀子氏を講師に、上町台地で幼時を
 過ごし、長じて子どもたちに大きな夢を届ける、小さな
 豆玩(おまけ)の世界を育てた、グリコのおまけ博士こと
 故・宮本順三さんの、生い立ちとライフワークに耳を澄
 ます講話。そして、展示で紹介した地域の方々の、幼い
 日の思い出を紹介するスライドショー&フリートークな
 ど、多世代の参加者が子ども視線に戻って夏の一日を
 ともにするプログラムを展開した(図10)。

ウィンドウ・エキジビション03
 『いのちをまもる智慧』を伝える
 減災に挑む30の風景と上町台地災害史

続くウィンドウ展示第三弾は、上町台地からまちを考
 える会の理事であり、大阪大学コミュニケーションデザイン
 イン・センター准教授として減災コミュニケーションデザ
 インに取り組み渥美公秀氏と、関係者を介し、全国の
 被災地に蓄積された『いのちをまもる智慧』を上町台地で
 受け止める仕掛けづくりに挑戦することとなった。タイ
 トルは、ウィンドウ・エキジビション03『いのちをまも



図9 U-CoRo独案内 vol.02
 (上町台地 子ども遊びいま・むかし)



る智慧』を伝える 減災に挑む30の風景と上
 町台地災害史(二〇〇七年九月三日〜二
 月二十八日 二〇〇八年一月一八日まで展示
 延長)。

全国各地で災害が絶えることはない。誰
 もが等しく将来の被災地・被災者になり得
 る日々を生きている現実がある。上町台地
 も決して例外ではない。しかし、上町断層
 が直下でありながら、災害に対する感度は
 高いとはいえない現状がある。同展に寄せ



図10 「夏の終わりに振り返る 子ども、うえまち、いま・むかし」街頭紙芝居風景(NEXT21立体街路にて)

て渥美氏は「世の中を見ますと、ともすれば人と人とのつながりは希薄になり、かけがえのない命が軽んじられているようにも思います。そんな今こそ、災害に遭われたみなさまに思いを馳せ、被災地で積み重ねられ、大切にされてきた教訓に耳を傾けるべきではないでしょうか」と語りかけている。

今回の展示は、全国の被災地を行脚し、「いのちをまもる智慧」を丹念に掘り起こし、紡ぎあげた一冊のストーリーブック『いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景』の紹介が中心である。各地の災害救援、復興支援に力を尽くしているNPO・NGO関係者(栗田暢之氏・吉椿雅道氏)をはじめ、災害に向き合いながら地域に根ざして生きる人々、人と地域に寄り添う減災の研究者(渥美公秀氏・関嘉寛氏・菅磨志保氏・宮下太陽氏)、デザイナー(花村周寛氏)、イラストレータ(中村妙氏)など、多くの志ある人々の協働によって実現したプロジェクトである。一九九〇年代、約七〇人の方との出会いから、三〇の温もりのある風景(ストーリー)として、「いのちをまもる智慧」を描きだしている。

災害から得られた知恵を、あえて「智慧」と書いている。教訓を知識に留めず、「日(い)づこ、立場を超えて広く伝え、共有することによって「智慧」になるといふ、制作者たちの願いがそこに込められている。その願いを上町台地上で受け止めようとの試みが同展である。ストーリーブックに描かれた「いのちをまもる智慧」の紹介とあわせて、上町台地の災害史を振り返る展示も行っている(図11)。

また、同展示内容のダイジェストとして『U-CoRo 独案内 vol.03』(5)を編集するとともに、ストーリーブックを周辺の図書館や地域のカフェや寺社数箇所に設置してもらい、まちと智慧をつなぐ仕掛けも試みている(図12)。

なお同展は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとの共催によるもので、『いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景』の制作に関わられた全国の方々、上町台地の災害史に関する貴重な資料や情報を提供くださった方々、ストーリーブックの設置に協力いただいた地域・施設の方々はじめ、多くの協力によって実現している。

図11 U-CoRoウィンドウ・エキジビション03 「『いのちをまもる智慧』を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害史」展示風景



図12 U-CoRo独案内 vol.03 (『いのちをまもる智慧』を伝える 減災に挑む30の風景と上町台地災害史)



協力者(資料提供など)、「いのちをまもる智慧」制作委員会(事務局)・(特活)レスキューストックヤード)、上町台地からまちを考える会、應典院、大阪城天守閣、大阪市立中央図書館、からほり倶楽部、喫茶上町1961、高津宮、惣(ク)ーデリー・カフェ、books & cafe LOW)、玉造稻荷神社、直木三十五記念館、(有)富士原文信堂、練、そのほかのみなさま(五〇音順)

また、会期中の二〇〇七年二月一九日に、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター及び(特活)レスキューストックヤードと共催で、『いのちをまもる智慧 減災に挑む30の風景』の制作者たちと、そこに描かれた風景と智慧に出会った読者たちが語り合う、減災Cafeを開催した。伝えたい智慧とは何か、どう伝えていくのかなど、つくり手と受け手が上町台地で思いを交わし語り合う場となった。

第一二話の終わりに

NEXT21の第3フェーズにおける地域コミュニケーションデザイン実験はまだ始まったばかりである。今後は、前述のようなU-COROを核とした実践を重ねていきながら、重層的なネットワークの形成に有効に作用するミクロな媒介装置としての可能性を検証していく予定である。

まず、U-COROで展開していくコミュニケーションデザインのプログラムが、どのようなネットワークによって豊かに支えられ、制作への参加を通して関係者の意識や行動のありようなどのような変化が見られるか、インタビュ調査によってネットワークの動態やメカニズムを把握していく。さらに、U-COROの存在が、どこま

で共的な価値として認識され、活用されているかどうか、NEXT21の居住者や周辺住民へのアンケート調査やインタビュー調査によって、地域への関心や関わりのある方の深度の変化などを把握していく。

こうした調査を、第3フェーズの地域コミュニケーションデザイン実験を担当する大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(筆者が所属)と、第1フェーズ以来、NEXT21の居住実験に取り組んできた京都大学大学院工学研究科居住空間学講座(高田・神吉研究室)とが共同で継続的に実施していく予定である。調査の積み重ねによる評価とともに、これからの都市における持続可能な住まい・暮らし・まちづくりに有効に機能する、地域コミュニケーションデザインのある方を探求していく、その第一歩を踏み出したところである。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所客員研究員)

CEL

(1)大阪ガス実験集合住宅NEXT21:

企画/大阪ガス(株)、基本計画/大阪ガスNEXT21建設委員会、設計/大阪ガスNEXT21建設委員会、施工(株)大林組、主要用途/集合住宅(一八戸)、所在地/大阪市天王寺区清水谷町六一六、敷地面積/一五四二・九二㎡、規模/地上六階・地下一階、建築面積/八九六・二〇㎡(建ぺい率五八・一%)。

(2)「U-COROプロジェクト・ワーキング」コアメンバー:

弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所/上町台地からまちを考える会)、北浦千尋(編集出版組織体アセテート)、橋本護(Brain)、早川厚志(まちづくり工房/上町台地からまちを考える会/からほり倶楽部/上町文化機構)。

(3)NEXT21の第1フェーズ・第2フェーズの居住実験報告は、NEXT21 その設計スピリッツと居住実験10年の全貌(二〇〇五年)にまとめられている。

(4)二〇〇七年四月からスタートした、NEXT21第3フェーズの概要は、http://stage.osakagas.co.jp/rd/nex21/ph3_community/ph3_community.htmで簡単に紹介されている。

(5)「独案内(ひとりあんない)」とは、まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと。